

平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月4日

上場会社名 アクシアル リテイリング株式会社  
 コード番号 8255 URL <http://www.axial-r.com/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 原 和彦  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役執行役員 (氏名) 山岸 豊後  
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月13日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東  
 TEL 0258-66-6711

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	121,222	24.2	3,966	25.7	4,031	18.9	2,364	21.4
25年3月期第3四半期	97,605	1.8	3,155	△5.0	3,390	△0.8	1,947	18.1

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 2,463百万円 (19.5%) 25年3月期第3四半期 2,061百万円 (21.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	121.65	—
25年3月期第3四半期	111.16	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第3四半期	91,913	38,163	41.5	1,634.87
25年3月期	55,313	26,350	47.6	1,508.31

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 38,163百万円 25年3月期 26,350百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	10.00	—	25.00	35.00
26年3月期	—	10.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	26.00	36.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年 3月期の連結業績予想(平成25年 4月 1日～平成26年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	167,000	30.0	4,500	15.3	4,700	12.6	2,400	17.9	117.65

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有  
 新規 1社 (社名) 株式会社フレッセイホールディングス、除外 1社 (社名)  
 (注)詳細は、この四半期決算短信【添付資料】6ページ「2 サマリー情報(注記事項)に関する事項 (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期3Q	23,388,039 株	25年3月期	18,014,239 株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	44,364 株	25年3月期	544,363 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期3Q	19,434,928 株	25年3月期3Q	17,520,779 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく監査手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

この四半期決算短信に記載されている業績予想等の将来に関する事項は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。  
 業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、この四半期決算短信【添付資料】6ページ「1 当四半期決算短信に関する定性的情報 (3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

【添付資料】

目次

	頁
1 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	6
2 サマリー情報（注記事項）に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
3 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(四半期連結損益計算書)	9
(四半期連結包括利益計算書)	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 継続企業の前提に関する事項	13
(5) セグメント情報等	13
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	14
(7) 重要な後発事象	14
4 補足情報	15
(1) 生産、受注及び販売の状況	15

## 1 当四半期決算に関する定性的情報

文中における将来に関する事項は、当第3四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び当社の連結子会社）が判断したものであります。

なお、将来に関する事項につきましては、不確実性を有しており、将来生じる結果と異なる可能性がありますので、記載しております事項に対する判断は、以下記載事項及び本項目以外の記載内容も合わせて慎重に行われる必要があります。

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、全般的な景況感の改善や一部業種が先行して収益改善を示すなどの動きが見られました。

このような状況において、当第3四半期連結累計期間における当社グループの連結業績は、平成25年10月1日に株式会社フレッセイホールディングスと経営統合したことに加え、旧・原信ナルスホールディングスグループ各社の業績が堅調に推移したため、売上高が1,212億22百万円（前年同期比24.2%増）、営業利益が39億66百万円（前年同期比25.7%増）、経常利益が40億31百万円（前年同期比18.9%増）、四半期純利益が23億64百万円（前年同期比21.4%増）と、各数値が前年同期に比べ大幅に増加し、1株当たり四半期純利益は121円65銭となりました。

売上高、営業利益につきましては、以下に記載いたしますセグメント区分ごとの要因により変動しております。

経常利益につきましては、営業利益の増加により増加しております。

四半期純利益につきましては、経常利益の増加により増加しております。

各セグメント別の業績を示すと、次のとおりであります。なお、各セグメントの業績値につきましては、セグメント間の内部取引高を含めて表示しております。

#### ① スーパーマーケット

##### (全般)

競合状況の激化は、同業他社との間のみならず、異業種との間でも一層激しさを増しており、販売価格の継続的下落が続いております。一方で、生鮮品の相場動向、為替相場の問題や原料原価の価格改定に起因した商品原価の上昇もあり、売上総利益を確保することが難しい状況が続いております。

このような状況において、当社グループでは、競争に耐えうる強い企業体質の実現に取り組んでおります。

当第3四半期連結累計期間におきましては、新たな競合の発生がありました。新規出店店舗や改装店舗が概ね好調に推移したことや、様々な取り組みの実施により、全店の売上高は前年同期に比べ5.6%増加（フレッセイ店舗について前年同期を遡及調整後）いたしました。店舗段階の売上総利益率は、商品仕入価格の上昇傾向と販売競争の激化の中にあっても、週間管理の仕組みを徹底することや廃棄ロス削減の取り組みによって24.4%と前年同期に比べ0.2ポイント増加することができました。

##### (経営統合)

平成25年10月1日をもって、当社を株式交換完全親会社、株式会社フレッセイホールディングスを株式交換完全子会社とする株式交換が効力を生じ、当社グループは、6県にまたがるリージョナル・チェーンとなりました。

また、これに併せ、当社は社名を「アクシアル リテイリング株式会社」に変更し、新たな企業集団として進発をいたしました。

「アクシアル」は、「軸」という意味であり、流通業界の新たな軸となつて、これからの社会に貢献してまいりたいという願いを込めております。今後も、原信、ナルス、フレッセイ各店舗が、地域の皆様にチェーンストアとしてのご利益を提供してまいります。

##### (商品政策)

春季につきましては、気温上昇が早めに到来したため、行楽用品や夏物商品が早めに動き出し、売上の底上げにつながりました。夏季につきましては、梅雨が長引いた後、急激な猛暑となりましたが、下旬には一時的に気温が低下し、その後再度上昇するなど、気温変動が非常に激しく、お客様の動向は細かく変化いたしました。秋季につきましては、台風の到来が多かったことなどの影響があり生鮮品が相場高となりましたが、概ね安定した状況となりました。これらに対し、先を見据えた商品計画を行い、概ね、状況に応じた対応が図れました。

プライベートブランドの商品につきましては、生鮮相場の変動に強い商品の改定や価格競争力のある季節商品の開発を行いました。

このほか、当社グループの購買規模を活かし、お客様にとって価格以上の価値をもった商品を選定して集中販売する「チャレンジ商品101」の取り組みや、当社グループ内の食品製造機能を活かし品質を兼ね備えた独自の低価格商品「パワーアイテム」の拡販を継続しております。

(販売政策)

販売計画の立案から結果の振り返りまでを体系化した週間管理の仕組みを徹底し、日々の店舗作業管理の仕組みと連動させることにより、環境や競合状況の変化にあっても、先を見据えた計画の立案や売場への具現化を継続しております。

行事や物日といった、いわゆるハレの日には、従来とは趣向を変えた商品提案を行い、お客様からご支持をいただくことができました。

催事につきましては、株式会社フレッセイホールディングスとの経営統合を記念した催事の実施や、例年実施している創業月を記念した月間催事に関する販売促進方針の見直しにより、お客様より大変ご好評をいただきました。

これらにより、来店客数は、前年同期に比べ既存店では0.6%増加（フレッセイ店舗について前年同期を遡及調整後）し、新規出店効果もあり全店では4.8%増加（フレッセイ店舗について前年同期を遡及調整後）いたしました。また、買上点数は、前年同期に比べ、全店で0.7%増加（フレッセイ店舗について前年同期を遡及調整後）いたしました。

(コスト・コントロール)

作業計画と連動した労働時間管理や、商品廃棄金額の削減、ISO14001の環境マネジメントと連動した環境コストの削減を進めるほか、様々な形で経営資源の適正利用、使用量の削減の取り組みを継続しております。

販売費及び一般管理費は、連結全体で前年同期に比べ55億25百万円増加し、売上高に対する比率は23.1%となり、前年同期に比べ0.1ポイント増加いたしました。概ね当初予定した範囲に収めることができました。

金額の増加につきましては、株式会社フレッセイホールディングスとの統合に伴う増加、店舗数の増加に伴う諸経費の増加や電気料金の値上げに伴う水道光熱費の増加、原油価格の上昇に伴う配送費の増加に加え、原信ナルス中之島DC（ディストリビューション・センター）の新設に係る諸経費の発生によるものであります。

(物流機能)

建設を進めておりました原信ナルス中之島DC（9月・新潟県長岡市・延床面積22,509㎡）が竣工いたしました。

これは、在庫保管型の物流センターであり、従来ごく小規模であった機能を、改めて大規模かつ本格的なものとして新設したものであります。

この設置の目的は、商品調達力の強化とロジスティクスの全体最適を図り、売場と連動して、ストアロイヤルティの向上や店舗オペレーション全体の効率的な運用を実現することにあります。

稼働後の期間においては、品切れの削減や鮮度の向上による販売力・収益性の向上、店舗在庫量や店舗作業量の削減による効率性の向上が表れつつあります。

(インターネットビジネス)

当社グループは、「原信ネットスーパー (<https://harashinnetsuper.hnhd.co.jp/>)」を開設し、離島を除く新潟県内を配送対象に、インターネット上で商品を販売しております。

この商品の発送拠点は、従来1か所でありましたが、開設後満2年が経過し業績も順調に拡大してきたため、12月に発送拠点を増設して2拠点とし、併せて、WEBサイト機能の改善を行い、使い勝手を向上させました。

今後は一層の受注増加につながるものと考えております。

(出店・退店等)

出店につきましては、原信上田緑が丘店（6月・長野県上田市・売場面積2,085㎡）、原信西新発田店（9月・新潟県新発田市・売場面積2,087㎡）、原信亀貝店（11月・新潟県新潟市・売場面積2,087㎡）を新設いたしました。

改装につきましては、原信新津店（5月・新潟県新潟市・売場面積2,392㎡）について実施いたしました。

退店につきましては、該当事項はありません。

上記のほか、平成25年10月1日に実施した株式会社フレッセイホールディングスとの経営統合により、新たに同社及び同社の子会社が当社の連結範囲に含まれました。これによる当社グループの増加店舗数は、スーパーマーケット49店舗、100円ショップ6店舗、フィットネスクラブ2店舗であります。

(業績)

当第3四半期連結累計期間の営業状況を示すと以下のとおりであります。

項目		当第3四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	前年同期比
店舗数	スーパーマーケット	121店舗	52店舗増
	100円ショップ	7店舗	6店舗増
	フィットネスクラブ	2店舗	2店舗増
店舗売上高	全店	114,541百万円	105.6%
	既存店	109,845百万円	101.5%
来店客数	全店	6,176万人	104.8%
	既存店	5,917万人	100.6%
買上点数	全店	10.66点	100.7%
客単価	全店	1,854円	100.8%

- (注) 1 店舗売上高、来店客数、買上点数、客単価は、スーパーマーケット店舗のみの数値であります。  
 2 店舗売上高及び客単価に消費税等は含まれておりません。  
 3 店舗数は、当第3四半期連結会計期間末現在の設置店舗数であります。  
 4 既存店は、店舗開設より満13ヶ月以上を経過した店舗であります。  
 5 買上点数は、お客様一人当たりが一回のご来店でお買い上げになる商品数の平均であります。  
 6 客単価は、お客様が一回のお買い物でお買い上げになった金額の平均であります。  
 7 前年同期比は、各月の比率の平均値であります。  
 8 平成25年10月1日に実施した株式会社フレッセイホールディングスとの株式交換により、新たに同社及び同社の子会社が当社の連結範囲に含まれたことによる当社グループの増加店舗数は、スーパーマーケット49店舗、100円ショップ6店舗、フィットネスクラブ2店舗であります。なお、当第3四半期累計期間の店舗数を除く各営業数値に含まれる当該増加店舗の影響は、前年同期に遡り調整をしております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におけるスーパーマーケット事業の売上高は1,204億62百万円（前年同期比24.0%増）、営業利益は35億98百万円（前年同期比24.3%増）となりました。

② その他

(清掃事業)

外部顧客向けの販売及びスーパーマーケット事業向けの販売は、受託先の増加によりいずれも増加いたしました。この結果、前年同期に比べ売上高が1.9%、営業利益が20.1%それぞれ増加いたしました。

(情報処理事業)

外部顧客向けの販売は、自社開発パッケージソフトの市場における評価が浸透し、販路の拡大により増加いたしました。また、スーパーマーケット事業向けの販売は、受注量の減少により若干減少いたしました。この結果、前年同期に比べ売上高が1.2%減少し、営業利益が69.0%増加いたしました。

(印刷事業)

外部顧客向けの販売は、メディア媒体の需要減少により若干減少いたしました。一方、スーパーマーケット事業向けの販売は、各種媒体やチラシ受注の増加により増加いたしました。この結果、前年同期に比べ売上高が9.4%、営業利益が55.7%それぞれ増加いたしました。

(その他)

株式会社フレッセイホールディングスとの経営統合により、運輸事業と自動車販売事業が新たに加わりました。

(業績)

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におけるその他の事業の売上高は35億14百万円（前年同期比26.8%増）、営業利益は4億25百万円（前年同期比62.6%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 財政状態の変動状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ366億円増加し919億13百万円となりました。また、総負債は前連結会計年度末に比べ247億86百万円増加し537億49百万円、純資産は前連結会計年度末に比べ118億13百万円増加し381億63百万円となり、1株当たり純資産は1,634円87銭となりました。

各項目別の内容を示すと、次のとおりであります。

(総資産)

流動資産は255億21百万円となり、前連結会計年度末に比べ112億87百万円増加いたしました。これは主に、年末の金融機関の休業に伴う仕入債務の未決済残高の増加と株式会社フレッセイホールディングスとの経営統合により、現金及び預金が前連結会計年度末に比べ70億56百万円増加したことによるものであります。なお、流動資産の構成比は前連結会計年度末に比べ2.1ポイント増加し27.8%となりました。

固定資産は663億92百万円となり、前連結会計年度末に比べ253億13百万円増加いたしました。その内容は次のとおりであり、固定資産の構成比は前連結会計年度末に比べ2.1ポイント減少し72.2%となりました。

有形固定資産は、503億1百万円となり前連結会計年度末に比べ204億90百万円増加いたしました。これは主に、当第3四半期連結累計期間における新規出店3店舗への投資及び在庫保管型物流センターの建設に係る設備投資にと株式会社フレッセイホールディングスとの経営統合により、建物及び構築物が前連結会計年度末に比べ121億99百万円増加したことによるものであります。

無形固定資産は、14億31百万円となり前連結会計年度末に比べ2億2百万円増加いたしました。これは主に、新規出店に関連した借地権の増加によるものであります。

投資その他の資産は、146億58百万円となり前連結会計年度末に比べ46億20百万円増加いたしました。これは主に、新規出店と株式会社フレッセイホールディングスとの経営統合により、敷金及び保証金が前連結会計年度末に比べ30億93百万円増加したことによるものであります。

(総負債)

流動負債は332億78百万円となり、前連結会計年度末に比べ155億69百万円増加いたしました。これは主に、年末の金融機関の休業に伴う仕入債務の未決済残高の増加と株式会社フレッセイホールディングスとの経営統合による諸負債の増加によるものであります。なお、流動負債の構成比は前連結会計年度末に比べ4.2ポイント増加し36.2%となりました。

固定負債は204億71百万円となり、前連結会計年度末に比べ92億16百万円増加いたしました。これは主に、株式会社フレッセイホールディングスとの経営統合による諸負債の増加によるものであります。この結果、固定負債の構成比は前連結会計年度末に比べ1.9ポイント増加し22.3%となりました。

(純資産)

株主資本は373億55百万円となり、前連結会計年度末に比べ117億14百万円増加いたしました。これは主に、株式会社フレッセイホールディングスとの経営統合に伴う株式交換の実施と四半期純利益23億64百万円の計上によるものであります。

その他の包括利益累計額は8億8百万円となり、前連結会計年度末に比べ98百万円増加いたしました。これは、投資有価証券の時価変動により、その他有価証券評価差額金が増加したことによるものであります。

なお、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ6.1ポイント減少し41.5%となりました。

② 連結キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における連結ベースの現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ70億56百万円増加し、128億47百万円となりました。

各キャッシュ・フロー別の状況を示すと、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は75億50百万円となり、前年同期に比べ32億63百万円増加（前年同期比76.1%増）いたしました。

これは主に、経常利益の増加によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は62億68百万円となり、前年同期に比べ44億52百万円増加（前年同期比245.2%増）いたしました。

これは主に、当第3四半期連結累計期間における新規出店3店舗と在庫保管型物流センターの建設により、有形固定資産の取得による支出が前年同期に比べ44億26百万円増加（前年同期比319.8%増）したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は19億5百万円（前年同期は使用した資金が12億70百万円）となりました。

これは主に、短期借入金の純増加額が前年同期に比べ24億73百万円増加（前年同期比618.3%増）となったことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

【第3四半期連結累計期間の実績値と通期業績予想に対する進捗率について】

(%表示は、対通期業績予想進捗率)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
通期業績予想値 (A)	167,000	4,500	4,700	2,400	117.65
第3四半期実績値 (B)	121,222	3,966	4,031	2,364	121.65
進捗率(%) (B)/(A)*100	72.6	88.1	85.8	98.5	103.40

当第3四半期の実績値は、通期業績予想値に対し概ね当初の想定どおり推移しており、現時点で業績予想の修正はありません。

【通期連結業績予想の前提条件】

売上高につきましては、主たる事業であるスーパーマーケット事業において、昨今の経済状況並びに第2四半期累計期間の実績を踏まえ、既存店売上高は前年同期とほぼ同等、全店売上高は新規出店3店舗による増加を見込んでおります。また、連結子会社の増加による売上高の増加(6か月分)については340億円程度を見込んでおります。

営業利益につきましては、売上総利益率の若干の改善と売上高の増加による売上総利益の増加を見込んでおります。また、連結子会社の増加による営業利益の増加(6か月分)については約4億円を見込んでおります。

経常利益につきましては、前連結会計年度において発生した雪害に関する受取保険金の減少を見込んでおりますが、連結子会社の増加による経常利益の増加(6か月分)について4億円強を見込んでおります。

当期純利益につきましては、特別損失の減少に加え、連結子会社の増加による当期純利益の増加(6か月分)について2億円強を見込んでおります。

【期末配当予想の前提条件】

上記通期連結業績予想及び当社の配当政策である配当性向30%に照らし、1株当たり年間配当金を36円(中間10円、期末26円)といたします。

【注意事項】

この四半期決算短信に記載されている業績予想等の将来に関する事項は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は既知及び未知のリスク、不確実性及びその他様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、当社グループが認識している事業等のリスクにつきましては、当社の有価証券報告書をご参照ください。

## 2 サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

平成25年10月1日をもって、当社を株式交換完全親会社、株式会社フレッセイホールディングスを株式交換完全子会社とする株式交換を実施し、同社ならびに同社の子会社5社(株式会社フレッセイ、株式会社フレッセイヒューマンズネット、株式会社高翔商事、株式会社力丸流通サービス、株式会社清和コーポレーション)が当社の子会社に該当することとなりました。

なお、株式会社フレッセイホールディングスは、資本金が当社の資本金の額の100分の10以上に相当するため、当社の特定子会社に該当いたします。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

当四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表規則に規定する「四半期連結財務諸表作成に特有の会計処理」の適用はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。



3 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,792	12,849
受取手形及び売掛金	692	1,199
リース投資資産	1,862	2,000
商品及び製品	2,657	5,309
仕掛品	9	51
原材料及び貯蔵品	120	268
未収還付法人税等	84	154
繰延税金資産	574	568
その他	2,450	3,132
貸倒引当金	△9	△14
流動資産合計	14,234	25,521
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	11,527	23,726
機械装置及び運搬具（純額）	431	592
土地	13,632	19,365
リース資産（純額）	2,101	4,033
建設仮勘定	799	645
その他（純額）	1,318	1,937
有形固定資産合計	29,811	50,301
無形固定資産		
のれん	0	45
リース資産	36	1
その他	1,192	1,384
無形固定資産合計	1,229	1,431
投資その他の資産		
投資有価証券	2,097	2,597
長期貸付金	18	42
繰延税金資産	1,345	2,226
敷金及び保証金	5,615	8,708
その他	966	1,128
貸倒引当金	△5	△44
投資その他の資産合計	10,038	14,658
固定資産合計	41,079	66,392
資産合計	55,313	91,913

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	8,873	16,695
短期借入金	300	4,580
1年内償還予定の社債	—	1,000
1年内返済予定の長期借入金	2,692	3,575
リース債務	312	534
未払法人税等	674	523
ポイント引当金	6	69
役員賞与引当金	105	89
賞与引当金	986	732
その他	3,757	5,477
流動負債合計	17,708	33,278
固定負債		
社債	1,000	—
長期借入金	2,124	5,304
リース債務	2,659	4,505
資産除去債務	2,527	4,535
長期預り保証金	2,691	5,122
役員退職慰労引当金	—	30
退職給付引当金	—	575
その他	251	396
固定負債合計	11,254	20,471
負債合計	28,963	53,749
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,159	3,159
資本剰余金	6,405	15,749
利益剰余金	16,748	18,501
自己株式	△673	△54
株主資本合計	25,640	37,355
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	709	808
その他の包括利益累計額合計	709	808
純資産合計	26,350	38,163
負債純資産合計	55,313	91,913

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 四半期連結損益計算書  
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	97,605	121,222
売上原価	71,994	89,276
売上総利益	25,610	31,945
販売費及び一般管理費		
ポイント引当金繰入額	6	69
従業員給料	3,691	4,542
雑給	6,445	7,777
役員賞与引当金繰入額	79	89
賞与	931	965
賞与引当金繰入額	464	684
役員退職慰労引当金繰入額	—	0
退職給付引当金繰入額	—	29
賃借料	63	55
地代家賃	1,965	2,625
減価償却費	1,431	1,914
のれん償却額	47	2
貸倒引当金繰入額	0	6
その他	7,327	9,216
販売費及び一般管理費合計	22,454	27,979
営業利益	3,155	3,966
営業外収益		
受取利息	48	52
受取配当金	25	29
受取保険金	168	17
その他	98	73
営業外収益合計	341	173
営業外費用		
支払利息	78	91
その他	29	16
営業外費用合計	107	107
経常利益	3,390	4,031
特別利益		
固定資産売却益	34	1
特別利益合計	34	1
特別損失		
固定資産売却損	—	5
固定資産除却損	20	23
投資有価証券評価損	10	—
減損損失	—	23
特別損失合計	30	52
税金等調整前四半期純利益	3,393	3,980
法人税、住民税及び事業税	980	1,193
法人税等調整額	464	422
法人税等合計	1,445	1,616
少数株主損益調整前四半期純利益	1,947	2,364
四半期純利益	1,947	2,364

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,947	2,364
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	113	98
その他の包括利益合計	113	98
四半期包括利益	2,061	2,463
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,061	2,463
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3 四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3 四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	3,393	3,980
減価償却費	1,614	2,066
減損損失	—	23
のれん償却額	47	2
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△8	3
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	△0	△3
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△16	△19
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△469	△756
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	—	0
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	—	0
受取利息及び受取配当金	△74	△82
支払利息	78	91
投資有価証券評価損益 (△は益)	10	—
固定資産売却損益 (△は益)	△34	3
固定資産除却損	20	23
売上債権の増減額 (△は増加)	△227	△305
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△513	△966
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,208	4,121
未払又は未収消費税等の増減額	17	△118
リース投資資産の増減額 (△は増加)	125	102
その他	△124	916
小計	6,047	9,087
利息及び配当金の受取額	28	33
利息の支払額	△72	△84
法人税等の支払額	△1,715	△1,485
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,287	7,550
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の純増減額 (△は増加)	△0	△0
有形固定資産の取得による支出	△1,383	△5,809
有形固定資産の売却による収入	156	120
無形固定資産の取得による支出	△64	△151
貸付けによる支出	△7	△13
貸付金の回収による収入	28	20
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△214
その他	△544	△219
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,816	△6,268

(単位：百万円)

	前第3 四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3 四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	400	2,873
長期借入れによる収入	2,300	2,600
長期借入金の返済による支出	△2,965	△2,628
リース債務の返済による支出	△394	△330
自己株式の取得による支出	△87	△0
配当金の支払額	△523	△608
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,270	1,905
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,200	3,187
現金及び現金同等物の期首残高	6,713	5,790
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	—	3,868
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,913	12,847

(4) 継続企業の前提に関する事項

当第3四半期連結会計期間（自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日）  
該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

【セグメント情報】

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間（自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日）

	報告セグメント		その他 (百万円)	合計 (百万円)
	スーパー マーケット (百万円)	計 (百万円)		
売上高				
外部顧客に対する売上高	97,074	97,074	531	97,605
セグメント間の内部売上高又は振替高	56	56	2,240	2,296
合計	97,130	97,130	2,771	99,901
セグメント利益	2,895	2,895	261	3,156

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報処理事業、清掃事業、印刷事業等を含んでおります。

当第3四半期連結累計期間（自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日）

	報告セグメント		その他 (百万円)	合計 (百万円)
	スーパー マーケット (百万円)	計 (百万円)		
売上高				
外部顧客に対する売上高	120,385	120,385	836	121,222
セグメント間の内部売上高又は振替高	77	77	2,677	2,755
合計	120,462	120,462	3,514	123,977
セグメント利益	3,598	3,598	425	4,023

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報処理事業、清掃事業、印刷事業、運輸事業、自動車販売事業等を含んでおります。

2 報告セグメントごとの資産に関する情報

前第3四半期連結累計期間（自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日）  
前連結会計年度末に比べ、著しい変動はありません。

当第3四半期連結累計期間（自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日）

当社は、平成25年10月1日付で、当社を株式交換完全親会社、株式会社フレッセイホールディングスを株式交換完全子会社とする株式交換を実施し、当第3四半期連結累計期間において、株式会社フレッセイホールディングス及びその子会社5社を新たに連結の範囲に含めております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において、「スーパーマーケット」のセグメント資産が前連結会計年度末に比べ36,273百万円増加し、「その他」の区分の資産が820百万円増加しております。

3 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

利益	前第3四半期累計期間	当第3四半期累計期間
報告セグメント合計	2,895百万円	3,598百万円
「その他」の区分の利益	261百万円	425百万円
セグメント間取引消去	3百万円	0百万円
全社費用	△979百万円	△838百万円
その他の調整額	975百万円	780百万円
四半期連結損益計算書の営業利益	3,155百万円	3,966百万円

- (注) 1 セグメント間取引消去は、主にセグメント間の固定資産売買によって生じた未実現利益に係る調整であります。
- 2 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社(持株会社である当社)に係るものであります。
- 3 その他調整額は、主に報告セグメントに帰属しない全社(持株会社である当社)に対する経営指導料支払額の消去であります。

4 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

5 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

(固定資産に係る重要な減損損失に関する事項)

重要な影響を及ぼすものはありません。

(のれんの金額の重要な変動に関する事項)

当社は、平成25年10月1日付で、当社を株式交換完全親会社、株式会社フレッセイホールディングスを株式交換完全子会社とする株式交換を実施し、当第3四半期連結累計期間において、株式会社フレッセイホールディングス及びその子会社5社を新たに連結の範囲に含めております。

この結果、当第3四半期連結累計期間において、のれんを「スーパーマーケット」セグメントにおいて46百万円計上しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

当社は、平成25年10月1日付で、当社を株式交換完全親会社、株式会社フレッセイホールディングスを株式交換完全子会社とする株式交換を実施し、新たに発行した普通株式5,373,800株及び当社が所有していた自己株式500,000株の合計5,873,800株を割当交付いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間において、資本剰余金が9,343百万円増加し、自己株式が618百万円減少しており、当第3四半期連結会計期間末において、資本剰余金が15,749百万円に、自己株式が54百万円になっております。

(7) 重要な後発事象

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

該当事項はありません。



## 4 補足情報

### (1) 生産、受注及び販売の状況

#### ① 販売実績

(単位 百万円、%)

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)		前年同期比			
	売上高	構成比	売上高	構成比	金額	比率		
スーパーマーケット	生鮮食品	青果	12,051	12.1	15,423	12.5	3,371	128.0
		精肉	10,620	10.6	13,539	10.9	2,918	127.5
		水産	8,708	8.7	11,541	9.3	2,832	132.5
		惣菜	9,156	9.2	11,078	8.9	1,921	121.0
		計	40,537	40.6	51,581	41.6	11,043	127.2
	一般食品	デイリー	18,335	18.4	22,900	18.5	4,565	124.9
		加工食品	27,895	27.9	33,553	27.1	5,658	120.3
		インスタアペーカリー	1,403	1.4	1,660	1.3	257	118.3
		計	47,633	47.7	58,114	46.9	10,480	122.0
	住居	4,227	4.2	4,913	4.0	685	116.2	
	衣料品	165	0.2	142	0.1	△23	85.7	
	その他	188	0.2	280	0.2	91	148.4	
	営業収入	4,320	4.3	5,353	4.3	1,033	123.9	
セグメント間の内部売上高又は振替高	56	0.0	77	0.1	20	137.2		
	小計	97,130	97.2	120,462	97.2	23,332	124.0	
その他	外部顧客に対する売上高	531	0.5	836	0.7	305	157.5	
	セグメント間の内部売上高又は振替高	2,240	2.3	2,677	2.1	437	119.5	
	小計	2,771	2.8	3,514	2.8	742	126.8	
	合計	99,901	100.0	123,977	100.0	24,075	124.1	

#### ② 仕入実績

(単位 百万円、%)

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)		前年同期比			
	仕入高	構成比	仕入高	構成比	金額	比率		
スーパーマーケット	生鮮食品	青果	9,557	13.1	12,369	13.7	2,812	129.4
		精肉	8,086	11.1	10,450	11.5	2,363	129.2
		水産	6,542	9.0	8,715	9.6	2,173	133.2
		惣菜	5,583	7.6	6,758	7.5	1,174	121.0
		計	29,769	40.8	38,293	42.3	8,524	128.6
	一般食品	デイリー	13,775	18.9	17,139	18.9	3,364	124.4
		加工食品	22,747	31.2	27,409	30.3	4,661	120.5
		インスタアペーカリー	652	0.9	758	0.8	106	116.3
		計	37,175	51.0	45,307	50.0	8,132	121.9
	住居	3,430	4.7	3,842	4.2	411	112.0	
	衣料品	122	0.2	105	0.1	△16	86.8	
	その他	159	0.2	143	0.2	△16	89.9	
	リース原価	166	0.2	202	0.2	35	121.6	
セグメント間の内部仕入高又は振替高	155	0.2	190	0.2	34	122.5		
	小計	70,979	97.3	88,085	97.2	17,106	124.1	
その他	外部取引先からの仕入高	1,655	2.3	2,232	2.5	577	134.9	
	セグメント間の内部仕入高又は振替高	277	0.4	273	0.3	△3	98.6	
	小計	1,932	2.7	2,506	2.8	573	129.7	
	合計	72,911	100.0	90,591	100.0	17,680	124.2	

(注) セグメント間の内部取引高を含めて表示しており、消費税等は含まれておりません。